



だより



R6.10.29 Vol.25

あーおもしろい虫の声♪

1年生の教室から鈴虫の鳴き声が聞こえてきました。「うん?」と思って見に行くと、生活科で秋の虫の鳴き声を学習していました。夜には虫たちの合唱がよく聞こえる季節になりましたね。蝉やいわゆる秋の虫の間は鳴き声を発します。これはオスのみに見られる生態でメスは鳴きません。なぜオスは鳴くのか?求愛行動ですね。様々な鳴き声がありますが、人の言葉に変換すると「結婚してください!」というプロポーズですね。はたまた「つきあってくれよお〜」「そこを何とかたのむよお〜」なんてお願いモードなのかも。(笑)

蝉のヒグラシの「カナカナカナ…」鈴虫の「リーンリーン」なんて奏なら思わずオッケーしそうですが、アブラゼミやクツワムシに「ジージー」「がちゃがちゃがちゃ」なんてやられた日には、「うるさい!」と、あっという間にふられてしまいそうな気もします。虫たちからは余計なお世話だという声が聞こえてきそうですが…。

ぜひ!

うちの事務の先生が「いい絵本ですよ!読んでみてください!」と紹介してくれました。とってもいい絵本でした。親子愛であったり、生かされているという感謝の気持ちであったり、決して命は粗末にしていいものではないという強い思いであったり。いろいろな感情が生まれ、心が揺さぶられました。ぜひご一読ください。



♪薄紅の秋桜が秋の日の〜♪

さだまさしさんが作って百恵ちゃんが歌った名曲ですね。世代ではなくてもご存じの方も多いのでは。秋桜が揺れる季節になりました。実は秋桜(コスモス)という読み方。この曲が広めたそうです。名曲と謂われる所以のひとつでしょうね。

四方山話真穴 ver. 其の二十五(シン・〇〇)

一時期、流行りましたよね。「シン・〇〇」それをオマージュしてかどうかは定かではありませんが、「シン・スタンダード」という書籍を読んでみました。「新・常識」という意味もあると思うのですが。外国の文化と日本文化を対比して書かれている内容が多かったです。いくつか興味深かったものを紹介します。

○ 日本のお母さんは家事をやり過ぎ…

イギリスのお母さんもドイツのお母さんも同じことを言ったそうです。バスタオルはかけていれば乾くから一週間は洗わない!とか、食器は大きな容器に入れておいて使った人が使った分を洗う!とか。清潔感へのこだわりも関係しているとは思いますが、子供の自立を促すためにもいいことじゃないかなと私も思います。

○ 日本とドイツの成績のつけ方の違い…

日本では「ペーパーテストの結果」で成績の80%が決まる(著者の思いです。)がドイツでは「授業中の発言」で60%が決まるのだそうです。私自身は間違いなく偏差値教育真っ只中!の教育を受けた人間であり、数値で判断された世代です。ドイツの教育に見習うところは大きいと感じています。

○ ヨーロッパの子供は駄々をこねない…

日本では公共の場で幼子が泣いていることに世間の目は厳しい。だから親は泣き止ませようと、子供の要求を飲まざるを得ない状況に追い込まれることがある。泣いたら願いが叶うという経験をした子供は泣き続けるだろう。しかしヨーロッパでは、そういう状況に世間の目は寛容である。泣いても願いが叶わないことを知った子供は駄々をこねない。親が甘いという論点ではなく、日本の社会が問題なのかも知れません。まだまだ興味深い話がありました。「幸福度世界上位の国は通知表をつけない」「海外の学校では鉛筆を使わない」等々。機会があればまた紹介します。(どっちがいい悪いではなく、考え方のシン・視点ですね。)